

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分
感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2024年							2025年												
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 ～7日	9月 ～14日	9月 ～21日	9月 ～28日	10月 ～5日
カンピロバクター	50	39	41	50	50	37	36	18	14	38	22	23	36	38	43	9	7	11	10	4
病原性大腸菌	76	83	70	86	49	46	33	23	107	90	91	71	93	78	97	17	33	17	13 (16)	12
腸管出血性大腸菌	2	1	6	2	0	1	1	0	0	1	0	2	3	3	2	0	0	0	0	0
サルモネラ	8	12	29	13	12	7	6	1	3	8	3	6	11	12	11	3	3	4	0 (1)	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	21	11	17	24	5	6	4	14	15	6	8	9	16	8	28	3	5	2	4	5
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	8	6	21	12	8	13	9	9	14	13	9	11	5	16	3	3	1	3	1
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	1	5	1	2	0	1	0	3	2	1	1	1	2	2	0	1	1	0	1*
ロタウイルス	1	0	0	0	0	0	0	2	8	9	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	1	0	1	0	0	1	3	4	4	2	1	1	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	0	1	1	1	0	0	0	0	11	37	10	6	2	2	0	1	2	0	0	0

()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

*その他は、アエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC)
感染症週報 令和7年第40週(9月29日～10月5日)

2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類 別	報告数	疾 患 名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一 類	0	発生なし	0							
二 類	7	結核	7		1	1		1	1	3
三 類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1							1
四 類	5	日本紅斑熱	2			1				1
		レジオネラ症	3		1			1	1	
五 類	60	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1							1
		梅毒	6	1				5		
		百日咳	53	5	19	6		14	4	5

注) 西部 … 大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
東部 … 三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町西部東 … 竹原市、東広島市、大崎上島町
北 部 … 三次市、庄原市● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

週報③

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター 広島市感染症週報

令和 7年40週(9月29日～10月5日)

■コメント

1 インフルエンザ

定点当たり0.60人と、増加傾向です。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖が第40週に2件報告されました。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

全国では、第39週に定点当たり1.04人と、昨シーズンより5週間早く流行開始の目安(定点当たり1.00人)を上回り、流行入りしました。

2 マイコプラズマ肺炎

定点当たり3.67人の報告がありました。多い状況が続いており、注意が必要です。

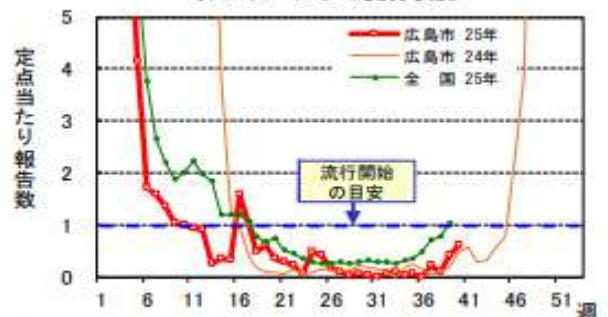
3 RSウイルス感染症

定点当たり1.14人の報告があり、多い状況が続いています。生後6か月以下の乳児、特に生後1か月未満では、重症化しやすく注意が必要です。感染経路は、飛沫感染、接触感染です。おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒や手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策を心がけましょう。

4 感染性胃腸炎

定点当たり4.64人の報告がありました。年間を通じて報告がありますが、秋から増加して冬にピークとなる傾向があり、注意が必要です。また、ノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生の報告が1件ありました。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理など、感染予防対策を徹底しましょう。

インフルエンザの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	2138	61.09		→	小児科	突発性発しん	6	0.27	0.26	
	インフルエンザ	21	0.60	1.07	→		ヘルパンギーナ	1	0.05	0.88	
	新型コロナウイルス(COVID-19)	147	4.20		→		流行性耳下腺炎	2	0.09	0.01	
小児科	RSウイルス感染症	25	1.14	0.23	→	眼科	急性出血性結膜炎	1	0.13	-	
	咽頭結膜熱	5	0.23	0.18	→		流行性角結膜炎	21	2.63	0.53	→
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	48	2.18	1.04	→	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	102	4.64	2.01	→		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	5	0.23	0.05	→		マイコプラズマ肺炎	22	3.67	1.27	→
	手足口病	10	0.45	1.45	→		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	24	1.09	0.02	→		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減 ↑ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 → 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ⇐ 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇐ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	97	10歳未満
4	レジオネラ症	1	26	70歳代
5	梅毒	5	119	10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、70歳代
5	百日咳	14	944	10歳未満・3人、10歳代・4人、30歳代・3人、40歳代・1人、50歳代・1人、60歳代・1人、70歳代・1人